



山陽スピリット ニュース No.11

2018(平成30)年3月15日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

「山陽スピリット」とは何か？

総合人間学部言語文化学科教授
 広報・山陽スピリット推進室長
 佐藤 雅代

広報・山陽スピリット推進室は、山陽学園の「愛と奉仕」の精神を学内外に広めるために、2015（平成27）年4月より、大学・短期大学に設置されました。その活動の一環として、『山陽スピリットニュース』を発行しています。発行時期は不定期ですが、年4回の発行を予定し、紙媒体の他に、山陽女子中学校・高等学校と山陽学園大学・短期大学のホームページでも公表しています。

本来「スピリット」は、目に見えないものですが、「山陽スピリット」と言う時、私たちの身近には、「スピリット」を具体的に示したものがあります。

それは、山陽女子中学校・高等学校では周知されている『上代淑先生遺訓 日々のおしえ』の日めくりの言葉（1日～31日）です。

上代淑先生は、1889（明治22）年に山陽英和女学校に着任し、1959（昭和34）年にこの世を去るまで、山陽学園のために尽力なさいました。

第二次世界大戦の戦火で、校舎がすべて焼失した時も「山陽の精神は滅びません、雄々しく灰の中から立ち上がりましょう」と、上代先生は校長として学校再建の陣頭指揮を執られ、復興資金を集める活動の一環として、日めくりを考案なさいました。ご自身で言葉を選び、文字は美術教師であった吉田豊先生が書き、日めくり『日々のおしえ』が完成し、1954(昭和29)年に1部100円で販売されました。

この日めくりを手にした同窓生は、当時どのような思いで暮らしていたのでしょうか。戦争で家族や同僚や友人など、大切な人を失い、明日を生きる希

望が見いだせず、何を支えに生きてゆけば良いのか、まるで闇の中にいるような気持ちだったのではないのでしょうか。

日めくり『日々のおしえ』には、「世のみなさんの幸福のためにつくしたいと思い、少しでも多くの方が、これを朝夕ながめてくださればよい」という上代淑先生の切なる願いが込められていました。その思いは、山陽学園で学んだ多くの同窓生の心に届き、混沌とした時代を生きる支えとなったことでしょう。

現在の日めくり『日々のおしえ』は、上代淑先生の養子として、その教えを直接に受けた上代皓三先生が、『日々のおしえ』の難しい表現などを、親しみやすい現代的な言葉に改めたものです。

2017 学生が選んだ 「日々のおしえ」ベスト10

- 第1位 美しい日は美しい月を 美しい月は美しい年を
美しい年は美しい生涯を（1日）
- 第2位 広い大空のように ゆたかな心を（31日）
- 第3位 さわやかな挨拶 あかるい一日（4日）
- 第4位 美しい行いは 美しい心から（18日）
- 第5位 与えた親切忘れても 受けた親切大きく感謝（11日）
- 第6位 人のために尽くす事こそ 私達のよろこびである（5日）
- 第7位 物の命を大切に（26日）
- 第8位 あたえられた仕事は 50センチ向こうまで（15日）
- 第9位 辛抱第一何くそで（12日）
- 第10位 車掌さんにも 運転手さんにも「ありがとう」（9日）

大学・短期大学では、2016年度より1年生全員が履修する必修科目「知的生き方概論」の授業でアンケートを取り、『日々のおしえ』31の中から好きな言葉を選んでもらい、そのベスト10を上代淑先生のご命日にちなんで公表しています。

さらに、ベスト10に選ばれた『日々のおしえ』の言葉に学内の写真を添えてポストカードを作成し、卒業生・修了生に配付しています。



ポストカードの配付

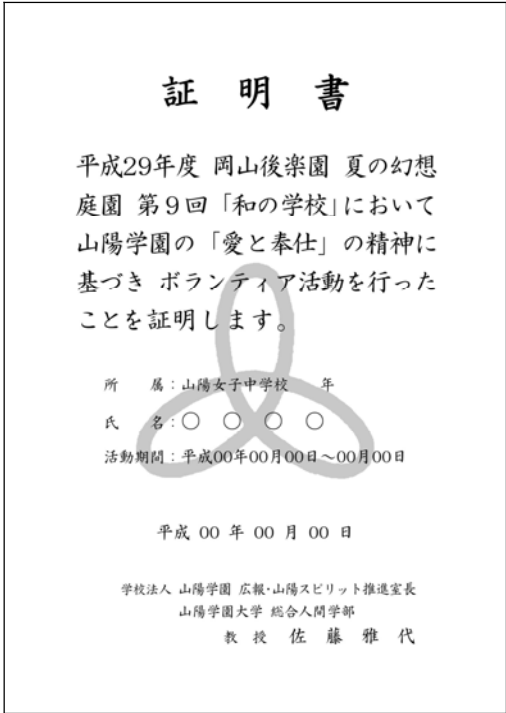
また、大学・短期大学では『学生生活ガイド』に『上代淑先生遺訓 日々のおしえ』（1日～31日）の言葉を2018年度より掲載します。

それから、広報・山陽スピリット推進室では、中学校・高等学校の生徒と大学・短期大学の学生が協力して『上代淑先生遺訓 日々のおしえ』を実践する機会を設けています。その一例として、岡山後楽園の幻想庭園で開催される「和の学校」のボランティアスタッフを募り、希望者にはボランティア証明書を発行しています。

また、「和の学校」のボランティアに参加した生徒と学生には、ボランティア報告を提出してもらっていますが、ここでその一部をご紹介します。

高校生A：『日々のおしえ』の中から、自分で実践する言葉を決め、心の中でその言葉を繰り返し、ボランティアに参加したことで、意識して行動できて良かったと思う。

大学生B：これまで、『日々のおしえ』を実践しているという実感を持ったことはなかった。今回、『日



ボランティア証明書

々のおしえ』31の言葉を読み返し、ボランティアに参加した。すると、『日々のおしえ』の言葉を知っているだけでなく、それを実践できる人でありたいと思うようになった。

以上のようなコメントから『日々のおしえ』が、生徒や学生に具体的な示唆を与えていることが窺えます。

さて、『上代淑先生遺訓 日々のおしえ』が、時代を越えて卒業生の心を励ましてくれるのは、なぜでしょうか。

常に自分の心にとめておいて、戒めや励ましとするのが「座右の銘」ですが、山陽学園で学んだ同窓生は、『日々のおしえ』という31の「座右の銘」を持っていることとなります。心が折れそうになった時、その心を奮い立たせてくれる言葉、他人への気遣いを忘れそうになった時、自分を戒めてくれる言葉、日々の生活の中で、自分は人として恥ずかしくない生き方をしているのか、上代先生の『日々のおしえ』の言葉は、一人ひとりの心に寄り添いながら、問いかけてきます。

『上代淑先生遺訓 日々のおしえ』には、生涯にわたり「愛と奉仕」を実践するために必要な「山陽スピリット」が込められているのです。どうかこれを心に刻み、人間としての成長に役立ててください。